

## 漕ぎ釣漁業導入試験

加世田農林水産事務所

### 1 背景

串木野市漁協は、正組合員数217名で、遠洋まぐろ延縄漁業者と沿岸漁業者で構成されている。沿岸漁業者で組織されている本浦沿岸組合は、98名中84名が65歳以上の高齢者で、主にアジ、イトヨリを対象とする一本釣、イセエビを対象とする磯建網漁業を営む傍ら、漁場利用の調整や、資源保護活動を行っている。沿岸漁業の主対象であるアジは、個々人が漁港の一部で出荷調整用の提灯籠を設置し、活魚として出荷されているが、近年資源の減少に伴い漁獲は低迷している。

### 2 目的

大多数が高齢者で構成される串木野市漁協本浦沿岸組合に、①広島や対馬でおこなわれており、②導入経費が安価で非常に良好な成績をあげている漕ぎ釣漁業を導入し、操業の効率化及び経営の安定を図ることを目的とした。

### 3 事業実施時期

平成16年12月～平成17年3月

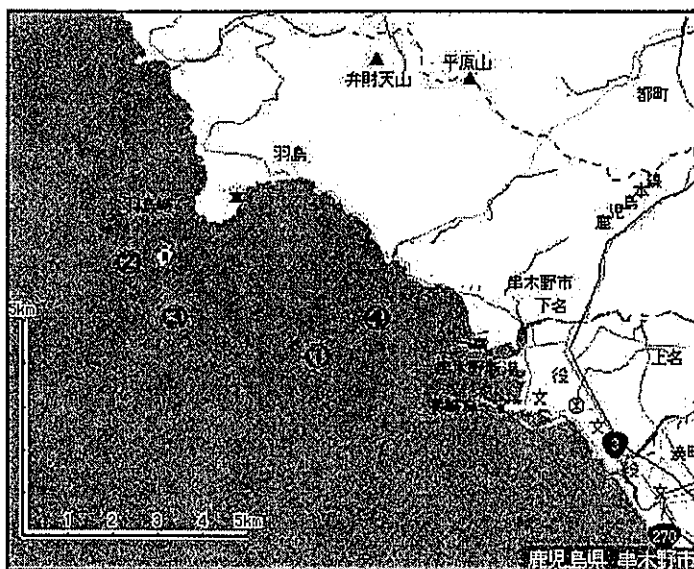
### 4 試験操業実施位置

右図に示す串木野市地先の4定点

- ①石油備蓄基地航路標識周辺の瀬礁
- ②沖の島沖の瀬礁
- ③羽島地先の大型魚礁
- ④荒川沖水深約19m付近

### 5 事業内容及び方法

- (1) 講習会及び乗船研修の実施  
漁具・漁法の勉強会及び乗船研修の実施
- (2) 漁具作成
- (3) 試験操業



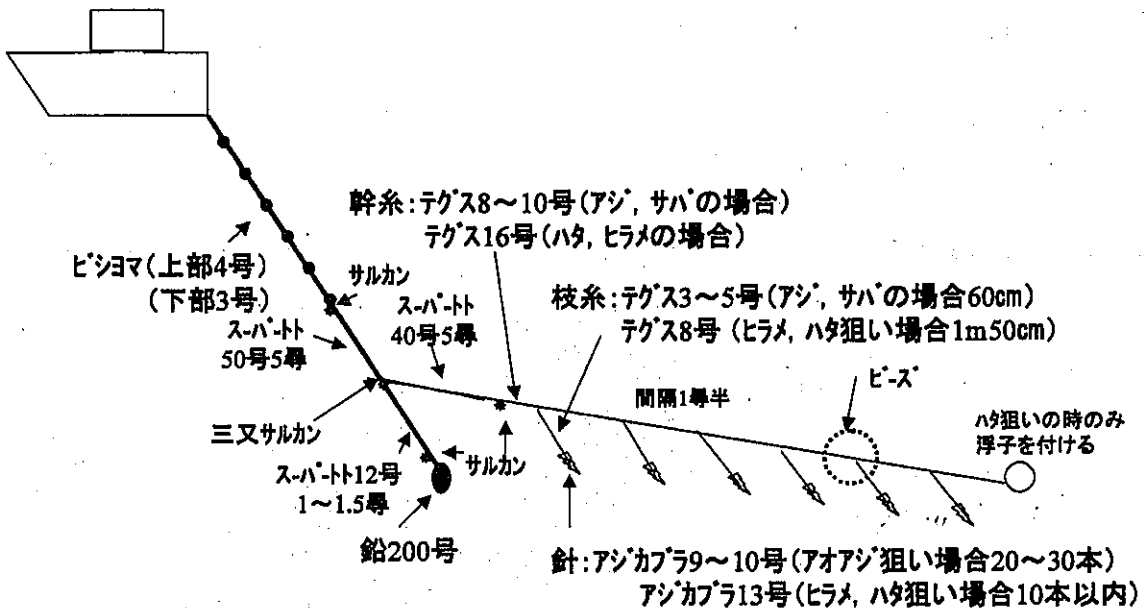
試験操業実施位置図

### 6 事業費(漁具費) 118,002円

試験操業用に、漕ぎ釣漁業漁具資材費用(6組分)

品名	規格	単価(円)	数量	金額(円)
ビシヨマ	100m	15,880	6組	95,280
ビシヨマから三又サルカンへのヨマ 50号	100m	2,250	1組	2,250
三又サルカンからオモリへのヨマ 12号	100m	980	1組	980
カブラ 11号	5入	381	12組	4,572
ビーズ LL	14個入	290	5組	1,450
幹系テグス 16号ナイロン	100m	560	3組	1,680
枝系テグス 8号フロ	100m	2,000	1組	2,000
三又サルカン	50入	571	1組	571
オモリ	180号	300	6個	1,800
ウキ		300	6個	1,800
消費税				5,619
合計				118,002

## 7 漁具図



マアジ, ヒラメ, ホウセキハタ:天然礁や人工魚礁の瀬際

アオアジ, サバ(ゴマサバ, マサバ):砂地

## 8 結果

### (1) 講習会及び乗船研修の実施(平成16年12月9日)

神戸で実際に漕ぎ釣漁業をおこなっていた福山和美氏を講師に漁具・漁法の勉強会を実施し、その後、福山和美氏所有船及び僚船により乗船研修を実施した。講習会及び乗船研修には、本浦沿岸組合10名が参加した(参加者年齢61~78歳)。

### (2) 漁具作成

本浦沿岸組合組合員5名に実際に漁具を作成してもらった。

### (3) 試験操業

#### ① 1回目

- 1) 日 時 平成17年3月2日
- 2) 試験操業者 串木野市漁協本浦沿岸組合4名(4隻)
- 3) 結果

試験操業位置①から③までの串木野市地先備蓄のブイ周辺の瀬礁、沖の島沖の瀬礁、羽島地先の大型魚礁周辺の漁場で試験操業を実施。この日は水温が低く、釣果は全員でキジハタ(ホウセキハタ)2尾、ヒラメ1尾、小型のエソ2尾であった。瀬際を操業する際、1隻は、すぐに瀬掛りし、道具(針)が切れてしまった。瀬礁上での操業はやはり実践での経験で技術を磨く必要がある。

#### ① 2回目

- 1) 日 時 平成17年3月28日
- 2) 試験操業者 串木野市漁協本浦沿岸組合2名(2隻)
- 3) 結果

試験操業位置④の串木野市荒川沖水深約19mの砂地で試験操業を実施。アオアジの魚群を発見し、2隻合計で27.5kgを漁獲した。多いときで1度に11~14尾まとめて漁獲されることもあった。魚体は平均約280g前後。漁獲物は漁獲後も活きが良く、漁船の活間でも元気良く泳いでいた。操業中にサメやサゴシが針にかかったアジを狙って襲ってきたのを確認した。途中で針を半分程度切られた。一部試験的に活魚で水揚げしたところ、800円/kgの値がした。他にヒラメ1尾、マサバ1尾も混獲された。

### 9 事業で得られた操業の注意点及び検討事項

- 潮の流れに直角に曳くと道具(幹糸と枝糸)がよく開いて良い。プロッターと魚探をみながら船速と瀬の状況をみながら曳かなければならない。魚のあたりは曳きながら手でとる。
- アオアジ、サバ狙いの場合(砂地を曳く場合)は、船速約3ノットで曳く。針数は20~30本、枝糸は60cmくらい。重りをいったん底につけ、それから一尋から二尋底から離して曳くのが良い(底を曳いてもかまわない)。砂地で獲れるので操業しやすい。周年操業できるが、11月以降~3月がアオアジは良く釣れる。
- アオアジの群れは、海底から中層くらいに1塊になっており、少しずつ移動している。船を走らせながら魚群を探索し、漁獲するこの潜ぎ釣漁業の漁法は理にかなっていると思われる。漁獲物は、漁獲後も活きが良く、活魚槽でも元気良く泳いでいた。1操業で30kg程度は充分活かしで水揚げできそうである。
- マアジは瀬付きのため、操業しにくいができないことはない。ただし、他の釣船が瀬場で操業していることが多く、必然的にアオアジ狙いとなることが多い。
- 瀬付きのキジハタ、ヒラメ狙いの場合、船速約1.8~2ノットくらいを保ちながら曳く。針は10本以内。枝糸は1m50cmと長くとる。(鉛)が海底を這うように曳く(手で重りが底を這う感覚をつかむ)。瀬礁がみえたら、瀬掛かりしないように傾斜に沿

って手で曳きあげなければならない。キジハタ（ホウセキハタ）はかかったらゆっくり引き上げなければならない。主に活魚で水揚げする。ハタ類はエア－抜きが必要。瀬礁で操業する場合、瀬掛りで道具（針）が切れてしまう可能性は非常に高い。瀬礁での操業はやはり実践経験で技術を磨く必要がある。

- 試験操業者には、次年度も野帳により操業結果を記録してもらうこととした。

## 1.0 所感

この漕ぎ釣漁業は、漁具制作費も安価であり、漁法もそれほど難しくなく、高齢者でも容易に着業できると思われる。また、操業方法や仕掛けを変えることで多種多様な魚種を狙うことができること、他の漁業終了後の帰港途中でも、魚群を発見次第すぐに操業できること、少々の時化日和でも、湾内の静穏域を探し操業することが可能であることなどの利便性を兼ね備えている。

試験操業では、瀬礁でのハタ、ヒラメ釣及び砂地でのアオアジ釣を実際に経験することができただけでなく、アオアジ釣りでは、試験操業としては稀にみる大漁にも恵まれ、試験操業者の操業意欲をいっそう高めることができたと思う。

串木野市漁協では、現在釣りアジ等のブランド化による出荷にも努力しており、この漕ぎ釣漁業導入により、さらに新鮮で質の高いブランド魚を供給できる出荷体制の整備が図られることを期待したい。



写真 1

漁具漁法講習会  
(16. 12. 9)



写真 2

漁具漁法講習会  
(16. 12. 9)

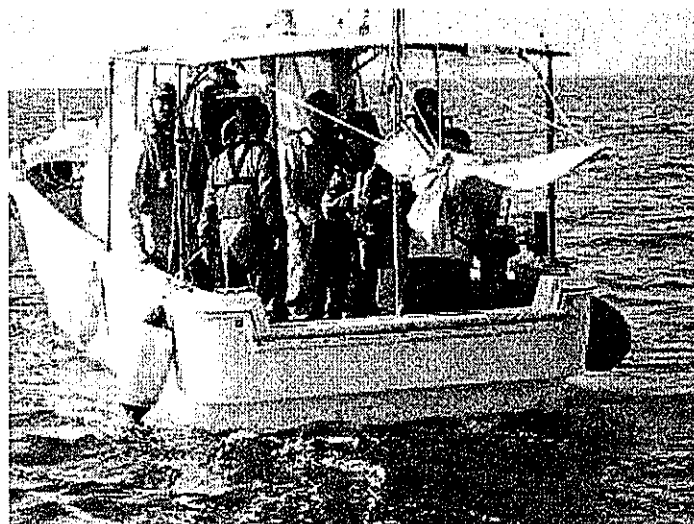


写真 3

乗船研修  
(16. 12. 9)

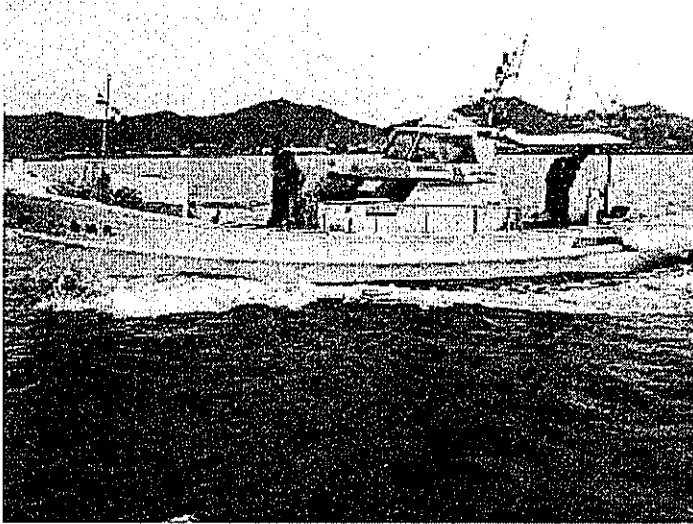


写真 4

試験操業 (1回目)  
(17.3.2)



写真 5

試験操業 (1回目)  
(17.3.2)

漁獲されたゴマアヲ  
(ホウセキハタ)

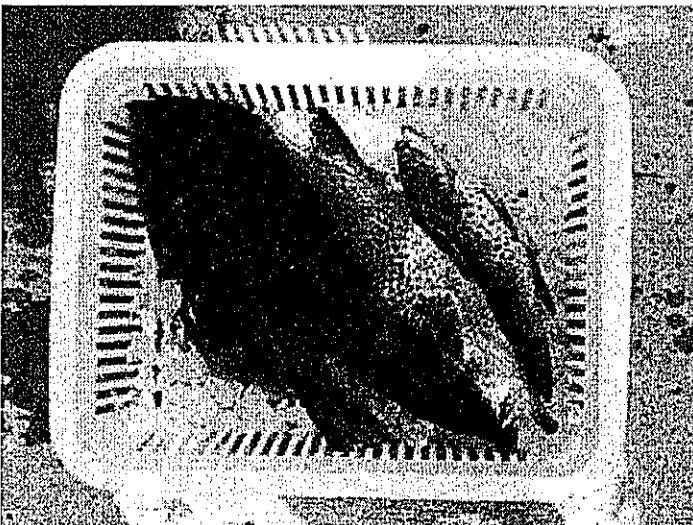


写真 6

試験操業 (1回目)  
(17.3.2)

漁獲物

ゴマアヲ 2尾

ヒラメ 1尾

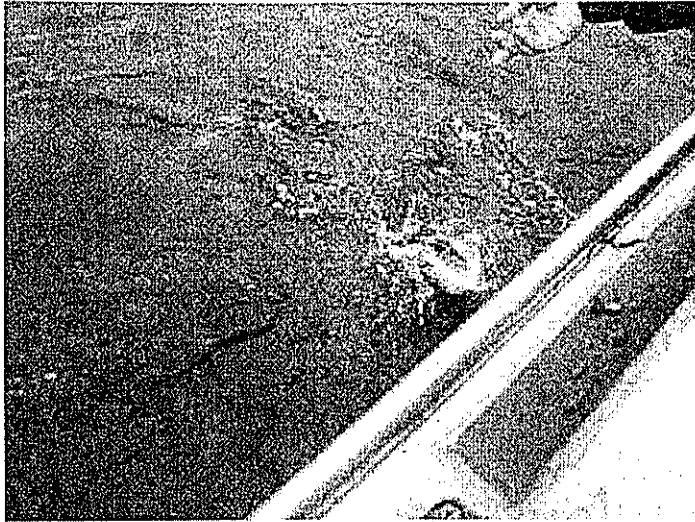


写真 7

試験操業（2回目）  
（17. 3. 28）

漁獲されたアアツ

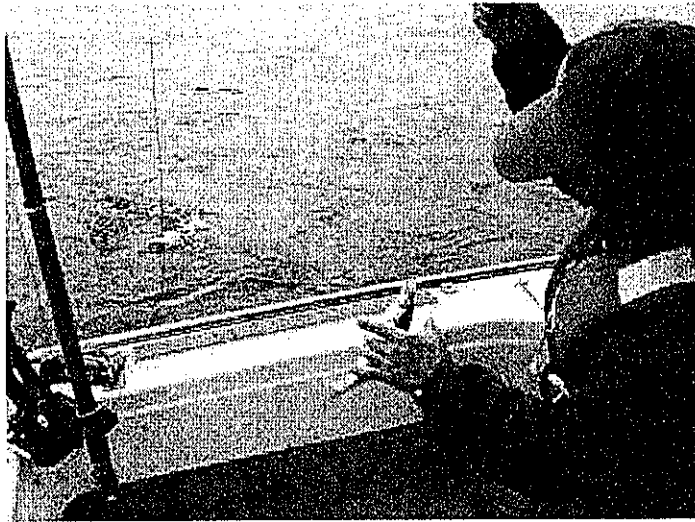


写真 8

試験操業（2回目）  
（17. 3. 28）

漁獲されたアアツ



写真 9

試験操業（2回目）  
（17. 3. 28）

漁獲されたアアツ

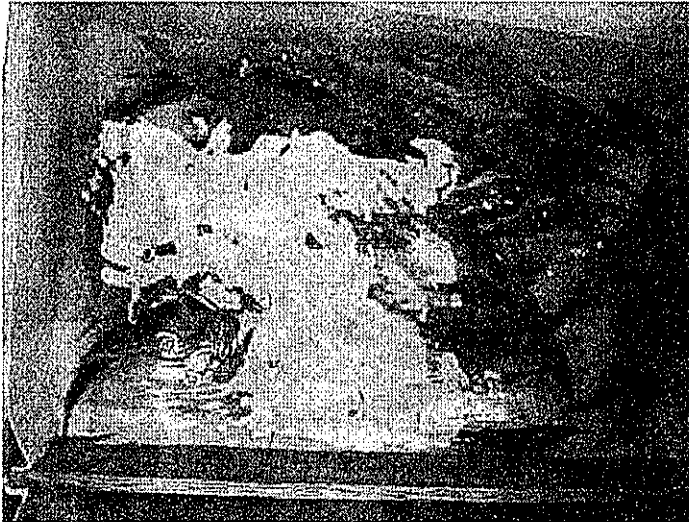


写真 1 0

試験操業（2回目）  
（17. 3. 28）

漁船活間のアアツ



写真 1 1

試験操業（2回目）  
（17. 3. 28）

漁船活間のアアツ

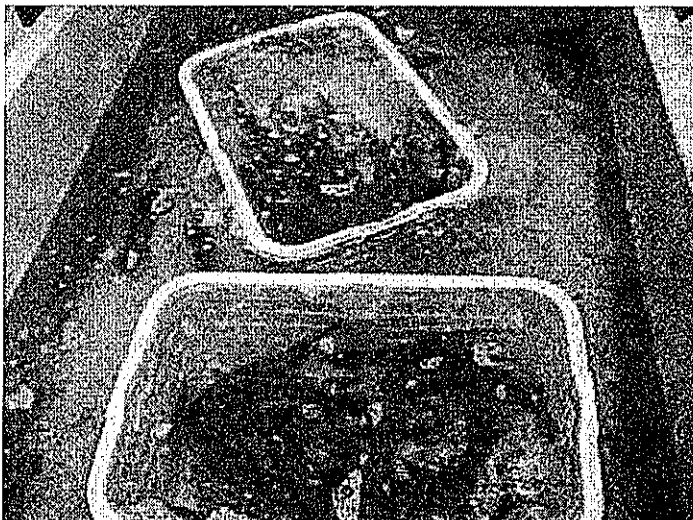


写真 1 2

試験操業（2回目）  
（17. 3. 28）

漁協活魚水槽に  
水揚げしたアアツ